

社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院 小樽協会病院臨床研修プログラム

R5.4.1

目次

- 1 理念 2ページ
- 2 基本方針 2ページ
- 3 研修プログラムの特色 2ページ
- 4 プログラム責任者 3ページ
- 5 研修委員会名簿 3ページ
- 6 指導医名簿 4ページ
- 7 研修を行う分野 4ページ
- 8 研修医ローテーションの原則 5ページ
- 9 研修医ローテーション 6ページ
- 10 研修医評価の流れ 7ページ
- 11 臨床研修病院群の想定時間外・休日労働時間 8ページ
- 12 研修医の処遇 8ページ
- 13 定員 9ページ
- 14 応募方法・お問合せ 9ページ
- 15 交通案内 10ページ

別添 別紙 1 「研修医評価票ⅠⅡⅢ 評価項目」

別紙 2 「一般外来・在宅医療研修の実施記録表」

別紙 3 「臨床研修申込書」

1 理念

- ◎医師としての人格を涵養する。
- ◎地域・社会に貢献する医師を育てる。
- ◎プライマリ・ケアの基本的な診療能力を育てる。

2 基本方針

1. 医師として必要な、知識・技能・態度・判断力などの基本的臨床能力を修得する。
2. 患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立することができる。
3. 緊急を要する疾病や頻度の高い症状・病態に対する初期診療能力を修得する。
4. 慢性疾患患者や高齢者、さらには末期患者への総合的な医療を理解し、診療計画に参画できる。
5. 患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、診療録やその他の医療記録を適切に作成できる。
6. 医療チームの構成員としての役割を理解し、保険・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調できる。
7. 患者および医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け危機管理に参画する。
8. 保険診療や医療に関する法令を遵守できる。
9. 生涯にわたる自己学習の習慣を身に付ける。

3 研修プログラムの特色

研修医1年目は必修科目である内科24週、救急4週（不足8週は2年間で40回以上の日当直を行います。）、外科4週、小児科4週、産婦人科4週のほか、自由選択を12週行います。

研修医2年目は必修科目である地域医療4週（一般外来1週・在宅診療1週を含む）、精神科4週を行い、残りの44週は研修医個人の希望を考慮し、専門性を重視した診療科や経験項目等の不足を補うための診療科を選択できるプログラムを準備しています。

一般外来研修は、平行研修として小児科と外科において2週ずつ実施し、また希望により協力型病院（帯広協会病院総合診療科）にて4週実施し、合計で4週以上実施することになります。

4 プログラム責任者

氏名 宮本 憲行
 所属 社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院
 役職 院長

5 研修委員会名簿 (R4年度年次報告より)

氏名	所属	役職	備考
宮本 憲行	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	院長	臨床研修病院管理者・プログラム責任者・研修管理委員長
進藤 学	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	副院長	研修管理委員
高木 千佳	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	副院長	研修管理委員
木村 弘人	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	事務部長	研修管理委員
松野 千代美	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	看護部長	研修管理委員
山田 史郎	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	循環器科部長	研修管理委員
辰巳 正純	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	外来診療部長	研修管理委員
石川 慶大	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	呼吸器外科部長	研修管理委員
黒田 敬史	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	産婦人科部長	研修管理委員
山根 真央	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	麻酔科部長	研修管理委員
橋本 功二	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	整形外科部長	研修管理委員
寺田 修治	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	診療技術部長	研修管理委員
小松 加奈	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	薬剤科長	研修管理委員
渡辺 直輝	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	画像診断科長	研修管理委員
藤田 美帆	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	総務課次長	研修管理委員
中垣 卓	医療法人勉仁会 東小樽病院	院長	研修実施責任者
中井 義仁	医療法人社団 三ツ山病院	院長	外部委員
有村 佳昭	小樽市立病院	院長	研修実施責任者
和田 卓郎	済生会小樽病院	病院長	研修実施責任者
平野 聡	北海道大学病院	卒後臨床研修センター長	研修実施責任者
土橋 和文	札幌医科大学附属病院	病院長	研修実施責任者
蔵前 太郎	社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院	診療部長	研修実施責任者
青柳 勇人	社会福祉法人北海道社会事業協会帯広協会	副院長	研修実施責任者

6 指導医名簿

担当分野	氏名	所属	役職	臨床年数
内科	宮本 憲行	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	院長	34年
外科（一般外来）	進藤 学	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	副院長	27年
内科	高木 千佳	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	副院長	33年
外科（整形外科）	橋本 功二	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	整形外科部長	19年
小児科（一般外来）	辰巳 正純	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	外来診療部長	26年
病理	飛岡 弘敏	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	病理診断部長	35年
麻酔科（救急部門）	山根 真央	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	麻酔科部長	23年
内科	長井 和彦	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	病棟診療部長	27年
外科（呼吸器外科）	石川 慶大	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	呼吸器外科部長	23年
産婦人科	黒田 敬史	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	産婦人科部長	16年
麻酔科	井上 彰	社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院	医師	33年

7 研修を行う分野

診療科	研修病院または施設名	期間
内科	小樽協会病院、小樽市立病院、済生会小樽病院	24週
外科	小樽協会病院	4週
救急（麻酔科）	小樽協会病院、小樽市立病院	12週
小児科	小樽協会病院	4週
産婦人科	小樽協会病院	4週
精神科	小樽市立病院	4週
地域医療	東小樽病院、済生会小樽病院、余市協会病院	4週
選択科	小樽協会病院、帯広協会病院 小樽市立病院 済生会小樽病院 北海道大学病院 札幌医科大学附属病院	56週

※当院だけでは不足する研修分野については協力型病院、協力型施設で研修を行います。

※救急12週のうち4週は麻酔科、残り8週は2年間で40回以上の当直研修を行います。

8 研修医ローテーションの原則

協力型病院・協力型施設と連携して1年間ないし2年間の研修の場を提供します。

<臨床研修担当科>

内科（場合により協力型病院でも実施）

外科

救急（麻酔科）（場合により協力型病院でも実施）

産婦人科

小児科

精神科（小樽市立病院）

地域医療（東小樽病院または済生会小樽病院または余市協会病院）

<研修医1年次>

必修科目：内科・救急・外科・小児科・産婦人科

自由選択

<研修医2年次>

必修科目：地域医療・精神科

自由選択

*自由選択科について

循環器科・外科・産婦人科・小児科・救急（麻酔科）・病理診断科・整形外科

その他、2年次は北海道大学病院または札幌医科大学附属病院で短期研修（逆たすき掛け研修）の選択も可能です。

短期研修は原則上限4クールまで選択可能となっています。

9 研修医ローテーション

最低限必要な期間は各研修担当科ごと4週以上で実施し、希望に応じた組合せが可能です。
 協力型病院・協力型施設での研修となる精神科及び地域医療は、原則4週とします。
 さらに、2年次研修では44週の自由選択期間を設けています。
 (自由選択期間に、必修科で経験項目が不足している診療科も選択が可能です。)

<1年次 必修科目及び自由選択>

1 年 目	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	
	内科 (循環器科・消化器内科)						救急 (麻酔科)	小児科	外科	産婦人科	自由選択			
	※救急不足8週は2年間40回の日当直で行います													

必修科目： 内科24週

外科4週、小児科4週、産婦人科4週、救急（麻酔科）4週

※内科研修は当院で研修内容が不足する場合、協力型病院でも実施します。

※救急不足分8週は2年間で40回以上の日当直で補います。

※救急は状況に応じ協力型病院である小樽市立病院でも行います。

自由選択 12週

<2年次 必修科目及び自由選択>

2 年 目	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
	精神科	地域医療	自由選択										
	※救急不足8週は2年間40回の日当直で行います												

必修科目： 地域医療4週（東小樽病院、済生会小樽病院、余市協会病院）

精神科4週（小樽市立病院）

自由選択 44週（協力型病院での短期研修の場合は原則4クールまでの上限あり。）

<その他>

- * 一般外来研修は、平行研修として小児科と外科において2週ずつ実施し、また希望により協力型病院（帯広協会病院総合診療科）にて4週実施、合計4週以上実施します。
- * 研修において、不足する部分については2年目の自由選択で補います。
- * 研修時期については、指導医と相談のうえ、時期の変更が可能です。
- * 基本的には到達目標もありますので、各診療科を最低4週は行っていただきます。
- * 協力型病院での研修については、他施設で行いますので時期の変更は原則できません。
- * 研修到達目標は2年間とします。

10 研修医評価の流れ

- ① 研修医は各診療科ローテーション終了までに、卒後臨床研修用オンライン臨床教育評価システム（PG-EPOC）通称EPOC2にて、研修医評価票ⅠⅡⅢの自己評価を登録し、経験すべき症候（29症候）並びに経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）について、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含む病歴要約を作成し登録します。
*別紙-1 研修医評価票ⅠⅡⅢ 評価項目 参照
- ② その他の経験すべき診察法・検査・手技等について、必修ではありませんが同様に記録することとしています。
- ③ 一般外来を実施した場合は、一般外来・在宅医療の実施記録表に記録し、指導医の実施確認の署名をもらい記録します。
*別紙-2 一般外来・在宅医療の実施記録表 参照
- ④ 指導医は研修医からの評価依頼を受けた後、EPOC2にて評価を行います。
- ⑤ 定期的に形式的評価を行い、研修状況等をフィードバックすることで、すべての項目を到達・経験できるようにします。
- ⑥ 2年間の研修修了までに、研修医評価票ⅠⅡⅢはレベル3以上を目標とし、経験すべき症候（29症候）、経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）は全ての経験が必須となります。

<経験すべき症候（29症候）>

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

<経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）>

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

11 臨床研修病院群の想定時間外・休日労働時間

病院名	種別	時間外・休日労働 最大想定時間数 (年単位換算)	おおよその 当直・日直回数 (宿日直許可の有無)	時間外・休日労働 前年度実績 (年単位換算)
小樽協会病院	基幹型	1名につき最大360時間	月3回程 (有)	1名につき約60時間
北海道大学病院	協力型	1名につき360時間	救急科・集中治療部で月4回程 (変形労働時間制)	1名につき約120時間
札幌医科大学附属病院	協力型	200時間	月4回 (宿直週1回、日直月1回上)	約100時間 (2022年度)
帯広協会病院	協力型	240時間	宿日直あり (有)	実績なし
小樽市立病院	協力型	600時間	月3回程 (上限5回) (無)	約570時間 (2022年度平均)
東小樽病院	協力型	0時間	なし	0時間
余市協会病院	協力型	500時間	月4回程 (申請中)	約450時間
済生会小樽病院	協力型	960時間	月1～2回程 (申請準備中)	実績なし

12 研修医の処遇

	1年目	2年目
常勤・非常勤別	常勤扱い	
手当	【基本給】550,000円	【基本給】600,000円
勤務時間	8時30分 - 16時50分	
有給休暇	16日間	20日間
休暇	隔週2日制 (4週8休)、年末年始休暇、夏季休暇、 メモリアル休暇、その他 (お盆振替、神社祭振替等)	
当直	約3回/月 (1回 10,000円)	
研修医の宿舎	病院で賃貸マンションを用意 賃貸マンションを借り上げるため現物支給 ※一部本人負担あり (20,000円～30,000円程)	
病院内個室	研修医室	
社会保険 労働保険	政府管掌健康保険、厚生年金、労働者災害補償保険法の適用あり 雇用保険あり、医師賠償責任保険 (病院、個人は任意)	
健康管理	入職時健診、健康診断年1回、個人線量毎月測定	
外部の研修活動	学会、研修会などへの参加可能 (参加費用支給あり)	

※研修期間中の研修医の診療アルバイトは禁止されています。

13 定員

<1年次> 3名
 <2年次> 3名 計6名

14 応募方法・お問い合わせ

当院では、随時見学・面接の申込みを受け付けております。
 ※面接を希望される方は、当院HPの応募フォームより、“面接希望”としてお申込み
 いただき、必要書類を下記宛先までご郵送ください。

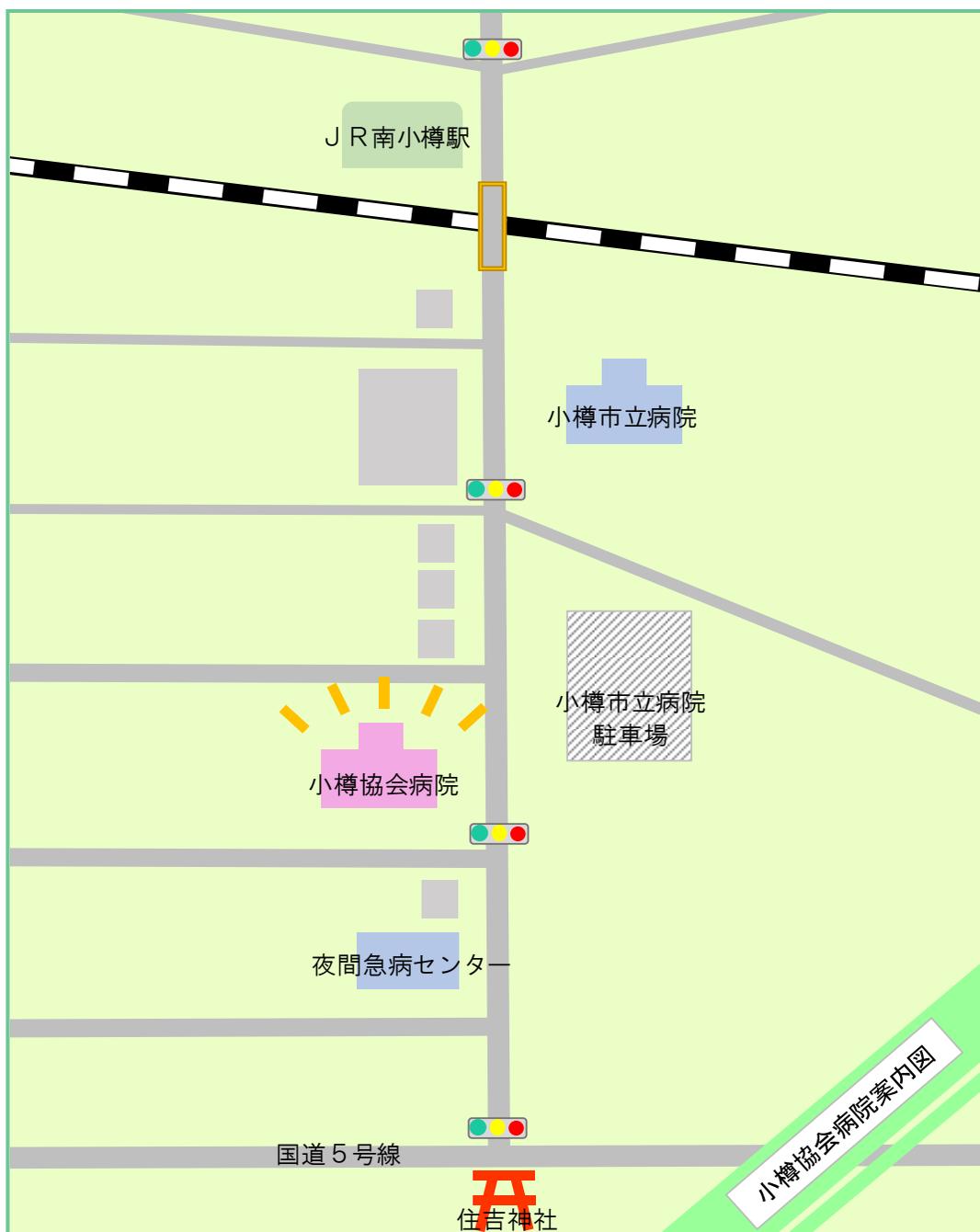
応募期間	毎年6月頃から開始
必要書類	履歴書（規定の様式はありません。） 卒業（見込み）証明書 ※発行が遅れる場合はお申し出ください。 臨床研修申込書 *別紙-3 臨床研修申込書 参照 ※面接にお申込みいただいた際にお送りさせていただきます。
選考方法	病院長および研修管理委員による面接
試験時期	随時実施 ※お申込みの際に希望日をお知らせください。
その他	病院見学は随時実施 当院HPの応募フォームよりお申込みください。 ※状況によりお断りする場合がありますのであらかじめご了承ください。
問合せ先	社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院 総務課 臨床研修担当 〒 047-8510 北海道小樽市住之江1丁目6番15号 電話 0134-23-6234 FAX 0134-33-7752 mail info@otarukyokai.or.jp URL http://www.otarukyokai.or.jp/

※当院は日本医師臨床研修マッチング協議会のマッチング・プログラムに参加しております。

15 交通案内

- 最寄り駅 JR南小樽駅より徒歩5分
- 最寄りのバス 住吉神社前バス停より徒歩5分
小樽協会病院前バス停より徒歩3分

※当院駐車場は患者さま用となっておりますので、お車での来院はご遠慮ください。



評価票 I 「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」に関する評価

評価 レベル	1	期待を大きく下回る	3	期待通り	—	観察の機会なし
	2	期待を下回る	4	期待を大きく上回る		

A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

A-2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する

A-3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

A-4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

評価票 II 「B. 資質・能力」に関する評価

評価 レベル	1	臨床研修の開始時点で期待されるレベル (モデル・コア・カリキュラム相当)	3	臨床研修の終了時点で期待されるレベル (到達目標相当)
	2	臨床研修の中間時点で期待されるレベル	4	上級医として期待されるレベル

B-1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

B-2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

B-3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

B-4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

B-5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

B-6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

B-7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

B-8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

評価票 III 「C. 基本的診療業務」に関する評価

評価 レベル	1	指導医の直接の監督の下できる	3	ほぼ単独でできる	—	観察の機会なし
	2	指導医がすぐに対応できる状況下でできる	4	後進を指導できる		

C-1. 一般外来診療

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

C-2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について入院診療計画を作成し患者の一般的・全身的な診療とケアを行い地域連携に配慮した退院調整ができる。

C-3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

C-4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

一般外来・在宅医療研修の実施記録表

実施施設	
診療科	
研修医氏名	

《総計》	
一般外来	日
在宅医療	日

- *① 実施した日の1日または0.5日の欄に☑を付けてください。
 *② 実施した研修について一般外来または在宅医療に☑を付けてください。
 *実施したローテーション終了時に指導医に署名をもらい、総務課までご提出ください。

研修医が記録

実施日 内容		月	日	日	日	日	日
①	1日	<input type="checkbox"/>					
	0.5日	<input type="checkbox"/>					
②	一般外来	<input type="checkbox"/>					
	在宅医療	<input type="checkbox"/>					
メモ							
実施日 内容		月	日	日	日	日	日
①	1日	<input type="checkbox"/>					
	0.5日	<input type="checkbox"/>					
②	一般外来	<input type="checkbox"/>					
	在宅医療	<input type="checkbox"/>					
メモ							
実施日 内容		月	日	日	日	日	日
①	1日	<input type="checkbox"/>					
	0.5日	<input type="checkbox"/>					
②	一般外来	<input type="checkbox"/>					
	在宅医療	<input type="checkbox"/>					
メモ							

指導医が記入

上記の通り実施したことを確認しました。

令和 年 月 日

医師署名： _____

臨床研修申込書

別紙-3

社会福祉法人
 北海道社会事業協会小樽病院
 院長 宮本 憲行 殿

私は、貴病院において研修を受けたいので、下記のとおり
 申し込みいたします。

申込年月日：令和 年 月 日

ふりがな		性別	配偶者
氏名	(印)	男 ・ 女	有 ・ 無
生年月日	昭和 年 月 日生 (歳) 平成		
現住所	〒		
連絡先	電 話 (FAX)		
	携帯電話		
	E-mail		
上記以外の連絡先	(住所・電話・携帯電話等)		
卒業(予定)大学名		(予定年月) 年 月	
在籍している大学講座名 または病院診療科名			
将来専攻したい診療科			
当院での研修を希望した理由			
※私は地域枠学生である ・ ない ○を記入してください。			
※マッチングユーザーID ()			

